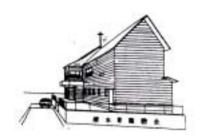
≪今朝の聖書から≫『ルカによる福音書』21:2 5~36は、私たちの日常的感覚を越える事から始まっていま す。しかし"人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安 で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからで ある。"というのはどうやら本当のようです。個人的な環境を 見ても、社会的政治的環境を見ても、"不幸だ"と嘆くことが 実に多いのではないでしょうか。しかし大切なことが在りま す。私たちがなんと言おうと、なんと思おうと、毎日日が経っ て行くということです。時間は連続して流れているのです。イ エス様はこの教えで、このような嘆きと不安の時間の流れの中 に、"目を見開き、救いに関して繊細な感覚を持っているなら ば、救いも見える"と仰っているのです。そんな不安のただ中 に"そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗 って来るのを、人々は見るであろう。"と27節で予告しておら れるのです。心が不安で貧しいことをよく知っている人は、救 いの印にも敏感で居ることが出来ます。そのような人、主の再 臨の近いことを見てとった人の姿を"これらの事が起りはじめ たら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいて いるのだから"と28節で示しておられます。私たちは、不幸 や不利益にはよく反応しますが、それだけでは、出口のない闇 の中で苦しむだけでなのです。救いに向かって"頭を上げて" いなければならないのでしょう。またこのような人の姿を"こ れらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前 に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさ い"とも36節で示しておられます。世の中に喜びを持って臨 む人の姿は"あなたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いのために 心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのよ うにあなたがたを捕えることがないように、よく注意していな さい"という34節の忠告を受けなければならない姿ではあり ません。聖書がこのように書いているのは、聖書全体が"私た ちの救いに関する書物"である事に気付いた人のためだからで す。"御心にかなう人々に平和"というメッセージは、"わたし の言葉は決して滅びることがない(33節)"のと同じことです。

週報

2006年 12月 3日



主の業に励むう

コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校 毎日曜日 午前 9:00 毎日曜日 礼拝式 午前10:30 (聖餐式 第一日曜日) 夕礼拝式 毎日曜日 午後 午前 10:30 エステルの会 岳水曜日 聖書研究祈祷会 毎水曜日 http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26 **20543-45-4070** E-Mail grace@big.jp 牧師 村上定幸